

【第11号】(2016年7月29日)

平成28年度輝く地域づくり研修会開催(7/1~7/2)

平成28年7月1日(金)~2日(土)の両日、美方郡新温泉町「ゆめ春來」において、平成28年度輝く地域づくり研修会が開催され、兵庫県内の町長を含む約100人が参加した。

この研修会は地域振興に造詣の深い学識者の講演や先進事例を聞くとともに、意見交換を行うことにより、各町の協力体制の構築やアイデアの共有を図り、各地域の振興に資することを目的として毎年開催している。

戸田善規兵庫県町村会長(多可町長)の開会挨拶に続き、「きっと住みたくなるまち 播磨町」と題して清水ひろ子播磨町長(政務調査委員会委員長)が講演を行った。

播磨町は平成29年に町制施行55周年を迎える、面積9km²の小さな町で、町南部の新島(人工島)には約60社の企業があり、毎日新島に約4,000人が通勤していると紹介。「播磨町で働きたい」「播磨町で住みたい」「播磨町で子育てしたい」「播磨町で住み続けたい」という“選ばれるまち”を目標に、“小さい”というスケールメリットを活かしたまちづくりを行っている」と説明した。



戸田善規兵庫県町村会長(多可町長)



清水ひろ子播磨町長(政務調査委員会委員長)

続いて、「地方創生の展望」と題して牧慎太郎総務省地域力創造アドバイザー・独立行政法人水資源機構理事が講演された。このまま人口減少となった時「年齢バランス」が問題であると述べ、人口減少自体を恐れることはなく、地域ぐるみで子供を育てるという安心安全な地域コミュニティづくりが重要であると説明した。



牧慎太郎総務省地域力創造アドバイザー

コミュニティ・デベロップメント

2日目は、「田園回帰時代の地域づくり」と題して筒井一伸国立大学法人鳥取大学地域学部地域政策学科准教授が講演された。小さい町になればなるほど、住民ひとりひとりの存在が重要であり、違う地域性を持った町同士が交流することにより、自分たちの地域にはない知恵・情報を受け入れながら「継業」による「地域づくり」に活かすことができる。コミュニティが地域づくりの柱であると説明した。



筒井一伸鳥取大学地域政策学科准教授

最後に、「兵庫の地域創生」と題して、荒木一聡兵庫県副知事が講演された。明治9年8月21日、府県統廃合により現在の県域が確定し、兵庫の強みは「多様性」である。歴史に培われた地域の個性を鍛え上げ、真の地方創生につながるようなことができるよう、共に力を合わせて取り組んで行きたいと説明した。



荒木一聡兵庫県副知事